

第2回 南相馬市復興市民会議 要約

日 時：平成23年7月17日（日）

13:55～16:10

場 所：南相馬市民文化会館

多目的ホール

1. 開 会【13:55】

2. 市長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議 事

(1) 南相馬市復興ビジョンについて【事務局説明】

(2) 意見交換

築瀬委員) 南相馬市における災害は難しい問題を抱えているため、議論の枠組みを提供する。特に、南相馬市の大きな問題は、原発事故と市民の方の避難がある。まちの復興を考えるためには、まず、原発事故が収束することであろうと考えている。どんなタイミングでインフラの復旧やまちの復興を考えるかというイメージ図である。

石川委員) 今回の市民意向調査は、全市民の中から無作為に抽出した、5000世帯だが市民の意見を吸い上げて足りているのか。

事務局) 被害を受けたのが1,400は全部。被害を除いた世帯から3,600を無作為抽出している。総合計画などでは3,000世帯を抽出しており。今回の抽出数は総合計画以上で調査している。

岩橋委員) 各地区に平均に行っているのか。

事務局) 無作為抽出、3区の人口割合を勘案して抽出している。

若松委員) 復興ビジョンは将来的なことと理解した。ただ、現在、復旧の復興ビジョンは描けない心情的なものがある。

- 1) 30km圏内は開放される時の条件はつけるのか。
- 2) がれきの撤去について、どんな進捗か、将来どうするのか。
- 3) 復興計画において、人口はどう考えているのか。

桜井市長) 放射線については、不安のない生活を前提に考えていく。

市民生活部) がれき撤去は、現在、仮置き場に運んでいる。できるだけ、リ

サイクル等を行っていく。撤去ボリュームの問題もあるため、仮置き場の増設も考えている。放射性廃棄物については環境省から基準は示されたが、最終処分場の問題もあり、それらの方向を見定めながら検討している。

事務局) 人々が戻ってくる条件として、学校の安全性の確保、雇用の場の確保、医療機能の充実を図っていく。

教育委員会) 小・中学校、幼稚園、保育園など施設は、地震の被害を修繕し、更に、除染する。ユニット校舎、仮設校舎を考えている。

高橋委員) 無作為の条件とはどんなものか。若者たちの意見が少ない。築瀬先生のイメージは、どのような期間になるか明示してほしい。放射線について、市長は地域の再生を含めどうお考えか。

事務局) 市民意向調査は世帯主の方をお願いしており、家族の皆さんに話を聞いて記入をお願いしている。その他、小学校・中学校の意見を募っている。広く意見をいただくために、今後、市民懇談会を開催する予定である。復興計画の期間については、概ね10年を考えている。

桜井市長) 生活にとって支障のないということが絶対条件と考えている。30km圏内の問題、放射線の量の問題はあるが、生活に支障がないというレベルまで極力下げていく必要がある。

高橋委員) 12月までに全てものを出すのは、無理ではないか。

事務局) 小高については時間を要するだろう。ただ、いち早く復興を行うことが重要である。12月までには策定していきたい。策定後は、適宜、見直す。

小畑委員) 復興計画がどの程度の人口を想定するのか、10年後はどうなっているとお考えか。

桜井市長) 現段階で何万人と想定することが前提であってはならない。原発災害によって、運命が変えられてしまったため、新たな発想に基づいてこのまちづくりに参加を呼びかけ、新たな市民を呼び寄せるといふ発想も必要である。大きな目標に向かっての議論をしていきたい。

小畑委員) 従前の生活を取り戻す、戻りたいと思うような復興であってほしい。

西委員) 表土の除染しか出てこないが、建物全体も全て除染してほしい。
原町区から順次開校していくようだが、まずは、安全を確保してほしいです。除染しても、その物質をどうするか、線量が高い処分場をつくってほしい。がれきの対応は、早急に取り組んでほしい。小高については、時間が必要だろうと考えている。

中里委員) がれきを早く処理してほしい。放射線の問題をできるだけ早く対処してほしい。

小高はインフラの整備が必要である。家が流された中、もう1度、家を建てられるのかという心配もある。

防災の理念で復興するのか、減災の理念で復興するのか、考える必要がある。元に戻り、住めるような対応をお願いする。

岩橋委員) 10、20年後の道筋をたてても、まずは復旧である。できる地区から住宅の応急措置実施していくことが必要である。

山川副委員長) 前は県のビジョンの検討委員会で出席できず申し訳ありませんでした。築瀬先生がイメージ図の初動期は重要な時期であろう。一番厳しいのは、津波でまちが流され、入れないということだと思います。

福島県内では小高地区と同様の行政もあり、県の復興会議以上に、具体的に検討する必要がある。

人口規模については、できる限り多くの人口であるべきだろう。

旧市町別で考えることになるだろうが、帰って来られるような町にすべき。

多くの公的資金が必要である。また、地元での雇用を確保する必要もある。復旧しながら、一定の雇用を確保していくか、課題になる。皆さんの知恵を集めて、モデルをつくり、それを実験しながら進めることがよい。

中里委員) 車による移動ができない道路があり、生活に支障をきたしている。

山川副委員長) 8月に解除される可能性があり、その間にどういう手順で対応するか、考えておく必要がある。

武委員) 応急的な対応については、復旧に向けた対応をする。

澤田委員) 合併して5年経ったが、市民が一体となったまちづくりをしていく必要がある。市は、地元をきちんと見てほしい。市外に土地を買って出ている人、子どもが転校すると、帰ってこられなくなるという現状もある。

<休憩 5分>

高橋委員) 仮設住宅、水の安全問題などがあるが、対応にばらつきがあり、正確な生活情報が伝わっていない。不満が多くて、若者が住めないというイメージがある。働く場所もない。市民が安心した形で住めるように、落ち着いて住めるように、完璧でなくても、丁寧な対応をお願いしたい。

若松委員) 復興ビジョン、主要施策について議論し、前に進みたい。

市長室) ページ数は少ないが、広報は月2回発行している。市外の方には、9,000部を直接郵送している。

今後、市内FM放送のほか、TV11チャンネルで7/20からオンエアする予定である。

中里委員) 地域の絆が断絶して、コミュニケーションの場がなく、どんどん引っ込み思案になってくるような気がする。復旧はそのままがんばっていけばよい。復興については減災の考え方が必要ではないか。

石川委員) 復興と復旧を分けて考えるべき。中越地震、阪神淡路大震災の計画は5ヵ月後にはできている。具体的なことを検討すべき。

小畑委員) 今日の会議の資料も当日渡しで、考える準備ができない。事務局の方には話し合いの資料を事前に送っていただきたい。

事務局) 次回は前もってお送りする。

星委員) 鹿島の現状について、避難所では保証金のことで小高の人たちと鹿島の人たちを一緒にできないという話がある。

鹿島のものを地産地消にしていきたい。

計画はおおざっぱに市の方で作ればいいのか。

阪神大震災の際は自殺する方が増えたというが、市民の視点で考え

てもらえたら、どうにかできるのではないか。

松野委員) 松川浦(相馬市)を拠点的に整備するという話があり、南相馬市においても防波堤の整備、住宅の整備を行ってほしい。漁業者は、海の近くでなくては仕事ができない。

石川委員) まず、できること。戻られる環境にするためには正確な情報を提供してほしい。スローガンにあるとおり、南相馬市に戻ってきたい、生活したい。

新妻委員) 前回欠席しています。小学校の前に船がたくさんあります。子どもたちの心のケアのためにも、校舎の前はなくしてほしい。ホームページへのアップ、情報も市民にわかるようにしてほしい。

<高橋委員長 急患のため退席、座長は山川副委員長へ>

市長室) ホームページに至急アップする。広報等でも配布する。

山川副委員長) とことん議論しようと思う。理念についても議論しなくてはならない。

中里委員) 減災の精神がないといけない。安全で安心なまちにするために、防潮堤は必要である。

澤田委員) 自分が代表そして話しているが、地元とも話し合う必要がある。

西委員) 井戸水を測定する場合、原町区だけでなく、他の区でも測定してほしい。また、野菜が安全なのかわからない。

但野委員) 私の場合、パソコンがなくなっているので、情報は紙でも必要である。

岩橋委員) いわきでは危険な地区を条例で定めている。できることからお願いしたい。

小畑委員) 市民の方々の心のケアを考えてほしい。市民活動サポートセンターではボランティア活動をする方の活動の場であるが、ボランティアだけでなく、地域の絆をつなげるために人のつながりが重要である。心が安らぎのある場がほしい。

澤田委員) 鹿島区では仮設住宅がつくられ、ゲートボール場がなくなっている。ストレスを抱えて荒れてしまう人もいる。鹿島の仮設住宅を見に来てほしい。移動する足もない人もいる。

高橋委員) 市民が直面している生活の問題は、別枠で対応してほしい。復興ビジョンは良いプランであると思うが、まず、生活の復興するために市役所での横断的でスピードを持って対応してほしい。

羽根田委員) 緊急時避難準備区域が解除されるようだが、安全・安心な状況をお願いしたい。津波被害に関しては、9割補助がでるようなので、早急に事業スケジュールを組むべき。

佐々木委員) 商工会議所の事業所では事業計画も立てられないため、資金繰りも難しい。実際問題、従業員を呼び戻せない。小さな子どもを抱えていると、戻りたくても戻れない。優秀な人材が流出してしまう。したがって、徹底的に除染をするしかない。

人口が半分以下になっている状況で商店が元通りの商工活動ができない。

ビジョンは内容的にはすばらしい。

地域は、安全であることが前提です。津波、地震の被害で危険な状況があると聞いています。まずは安全を確保してほしい。

山川副委員長) 委員の皆さんへの対応は、委員長、事務局で検討をお願いしたい。緊急にやるべきことは、タスクフォースをつくって対応してほしいです。自助、共助、公助という言葉がある。共助という観点で考えてほしい。

6. その他

事務局) 次回は、8/6(土) 13:00を予定している。

意見募集シートは、7/22までです。よろしくお願いします。

7. 閉 会【16:10】